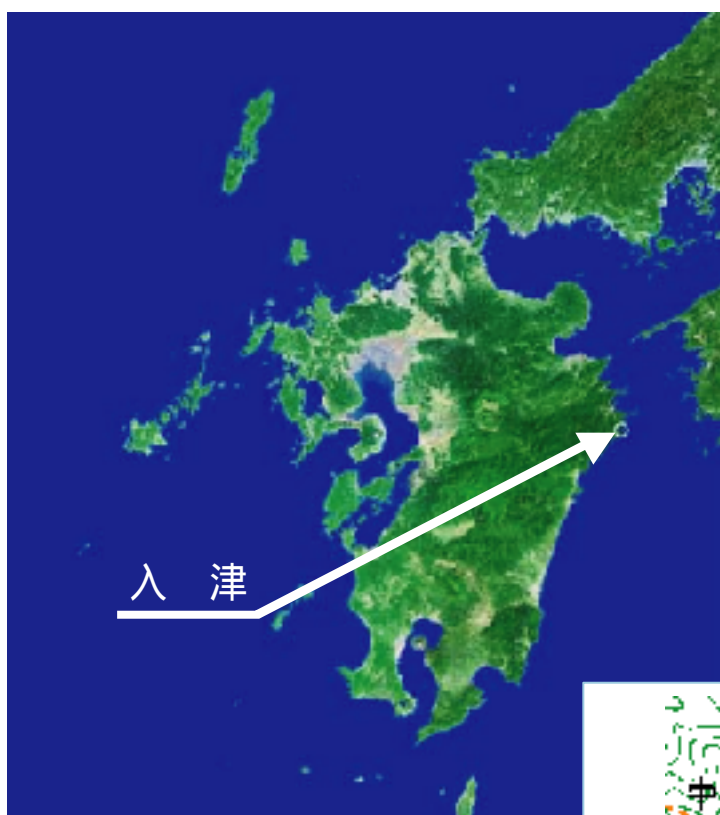


海域の概要

本湾は、大分県の最南部に位置する湾で、東部を豊後水道に開いています。湾内には、いくつもの港があり、真珠・プリ・ヒラメの養殖が行われています。



Specification

諸元

湾口幅：1.42 km

面積：5.28 km²

湾内最大水深：2.5m

湾口最大水深：2.0m

閉鎖度指標：2.02

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

大分県南海部郡蒲江町赤研鼻と同町龍宮鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

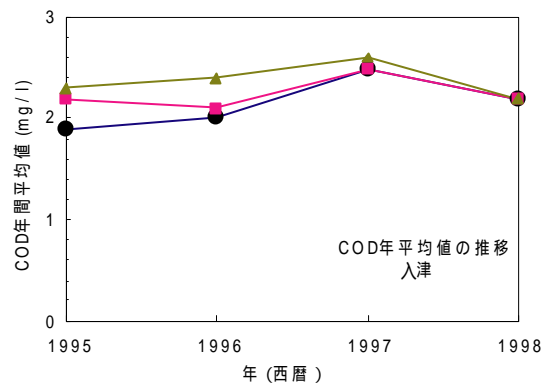


環境

湾口を日向灘に開いている湾で、気候は太平洋岸気候区に属します。沖合を流れる黒潮の影響を受けて温暖多湿な海域です。

大きな流入河川はありませんが、湾内は生活排水や魚類養殖により汚濁負荷により、水質悪化が進み、赤潮による漁業被害も見られるようになりました。

COD年平均値では、湾奥部で 2mg/l 以上で推移していて、浄化を図るため、湾口の掘削工事を実施するとともに水流発生装置とばっ気装置の導入で水流を発生させ、簡易型排水処理施設で処理を行っています。また、平成5年からは、培養処理したイトゴカイを大量に海底の泥に散布し、ヘドロ化した有機物の処理を行う実験なども行われています。



自然

入津は、日豊海岸国定公園の一部で、西浦湾、河内湾、楠本湾、釜ノ浦などの小湾から成り、ヤツデの葉のような形をしています。湾口には干出地があり、豊後水道からの荒波を天然の離岸堤で防ぎ、湾内は大変穏やかです。

湾口の芹崎付近はダイビングスポットとして知られ、海綿類やソフトコーラルの多い海です。

蒲江町の町花であるハマユウは、釜ノ浦の江武戸で見られます。また、西野浦の仙崎山の山頂一帯の山肌を5万株のフジツツジが覆う春の仙崎つつじ祭りは有名です。



日豊海岸国定公園

文化歴史

蒲江で古来の漁業で使われた漁撈用具は、国指定有形民族文化財に指定されています。用具には、孟宗竹で作られたアミバリ、仕事着のドンダ、神楽奉納に用いられるイヨミウチワ、木製の網用ブイのエベスアバ、テンマセンなどがあります。

平成10~11年には、西浦の反対に位置する「日本の渚100選」の元猿海岸のマリンカルチャーセンターにマンボウが訪れ、「マンボウの町かまえ」として一躍脚光を浴びています。



有形民族文化財「アミバリ」

産業

基幹産業は水産業で、古くは真珠養殖で盛んでしたが、価格の低迷などにより魚類養殖に転業し、現在はブリやシマアジなどの養殖が行われています。特産品には養殖ブリ・真珠・ヒラメ、干し物などがあります。また、温暖多湿の気候風土は果樹栽培に適し、柑橘・ピワ・柿の栽培も盛んです。

蒲江では釣りが盛んで、クロ、バリ、イカ、イシダイ等を釣ることができます。